

## 平成28年度第3回墨田区図書館運営協議会会議録

1 日時 平成29年3月11日（土曜日）

午前10時～午後0時

2 場所 ひきふね図書館 会議室

3 出席者

副会長	日向 良和	(都留文科大学准教授)
委員	西村 均	(墨田区立竪川中学校長)
委員	持田 由美子	(図書館ボランティア「ブックトークの会」)
委員	齊藤 宮子	(図書館ボランティア「点訳きつつき」)
委員	北村 志麻	(墨田区ひきふね図書館パートナーズ)
委員	碓氷 喜信	(公募区民委員)
委員	成田 美智子	(公募区民委員)

〈欠席者〉	上田 修一	(立教大学特任教授)
	安藤 芳典	(墨田区立曳舟小学校長)
	佐藤 弘行	(墨田区ひきふね図書館パートナーズ)

4 議事

- (1) 今年度実施した新たな取組について
- (2) 来年度に向けた課題について（ハイティーンの利用促進等）
- (3) その他

5 会議録

議事第1

今年度実施した新たな取組について

日向副会長 第1番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

石原館長 配付資料1について説明

日向副会長 今の説明の中で、何か質問があればお願いしたい。

碓氷委員 様々な取組の実施について感謝したい。気になった点は、緑図書館の雑誌コーナーが2階に移ったが、コピー機は1階のままで、導線としては使いにくくなった。なぜコピー機を2階に移さなかったのか。また緑図書館では座席数が減ったのではないか。他の図書館にあった仕切りのある座席もない。駐輪場には鳩の糞が落ちるなど使いにくい。盲導犬については、ひきふね図書館以外も、入館できるの

か。これまでは緑図書館では盲導犬を見たことがない。

**田中緑図書館長** 図書館で行っているコピーサービスについては、図書館の資料をコピーするサービスなので、カウンター職員の目の届く場所に設置する必要がある。2階には職員が常駐していないので1階のままとなっている。次に座席数については、基本的には変わっていない。2階の座席数は増えている。ただ仕切りのある席はない。緑図書館は、学習席を集会室と兼用して使用しているので、可動式の机としている。ご理解いただきたい。鳩の糞については、区役所の主管課とも話をして対応を考えている。

**日向副会長** 盲導犬等については、今まで見たことがないということは、周知不足や、障害者の側からのバリアになっているものがあるのかもしれない。入館すること自体は構わないことだと思う。

**碓氷委員** 盲導犬や介助犬が入館できるというお知らせを貼っておいたらいいと思う。もし遠慮している人がいたら気の毒だと思う。

**日向副会長** 鳩の糞については、私の大学は燕が来るが、鷹の模型を吊るすといなくなったりする。それらの工夫をしてもらえればと思う。コピー機については、著作権法第31条があるので、本来個人でコピーすることができないのは仕方がない。

**碓氷委員** 緑図書館には館内を巡回している職員がいたので、それで対応していて問題ないと思っていた。

**日向副会長** 外形的には職員がいるときには必ず見られるような形式をとらなければいけない。巡回の際のチェックだけというわけにはいかない。

**持田委員** 立花図書館は、工事期間が約3カ月で、費用が約3千2百万円（予算は約4千万円）という説明があったが、緑図書館、八広図書館についても教えてほしい。

**畑野主査** 八広図書館は、工事期間が今年の11月1日から今年の1月31日までの約3カ月間で、費用は約2千8百万円（予算は約4千3百万円）である。

**田中緑図書館長** 緑図書館は、工事期間は9月から12月末までで、費用は約1億5百万円（予算は約1億1千5百万円）。9月から11月までの間は、特設カウンターを設けて、予約資料の貸出と返却だけは行って、12月からは完全休館とした。

**持田委員** 小中学校向けの団体貸出セットについてだが、学級文庫についてのセットなのか、単元に合わせたセットなのか。また、視覚障害者と晴眼者が一緒に巡る図書館ツアーについては、視覚障害者の参加者3名というのは少ないと思う。どんな広報を行ったのか。

**畑野主査** 団体貸出セットだが、小学校向け学級文庫用が、低学年9セット、中学年8セット、高学年8セットで、計25セット。それから学習用に4テーマ、働く自動車2セット、サケ2セット、障害ユニバーサルデザイン1セット、日光について2セット。小学校向けについては計32セット。それから中学校向けとして、学級

文庫用が10セット、学習用として職業、戦争平和、多文化共生、葛飾北斎・花火、環境エネルギーの5テーマを1セットで、計15セット。小学校、中学校合せて47セットとなっている。

**持田委員** 小学校、中学校は各何校あるのか。

**畑野主査** 小学校は25校、中学校は10校である。

**石原館長** 視覚障害者と晴眼者が一緒に巡る図書館ツアーについては、募集の段階から視覚障害者は3名までと限定していた。予想を上回る募集があったが、残念ながら何名かは抽選の結果、また次回という形になった。

**持田委員** 3名に限定にした理由は何か。

**石原館長** 3名で回るのがベストと考えた。時間差で周回するので、2時間の枠の中、充実した内容で、安全を確保するとなると、この人数が適切と判断した。齊藤委員もスタッフだったので、何かコメントがあればお願いしたい。

**齊藤委員** 私が提案したことを実現してくれたひきふね図書館に感謝したい。事前に試したが、言葉で説明するのはとても時間がかかる。たくさんの方に来てもらっても、休館日に行わないと無理となってしまうので、人数は3名に限定した。言葉で説明しないとわからないというのは、かなりハイレベルなものである。目で見えない場合にどうするのかというときに、こういうサービスをしていることを説明させてもらった。ただ館内を回るだけでなく、最後に参加者に感想を述べてもらった。「私を見かけたら声をかけてください」と3名の視覚障害者の方が同じようなことを言われていた。やはり地域の図書館でやるというのはプラスになるのかな、と感じた。地域の図書館として、こういうことにチャレンジしてくれたのはとても嬉しかった。今後もいろいろな意見を入れてブラッシュアップしていきたい。ぜひ皆様に参加してもらえればと思う。

**日向副会長** 齊藤委員としては、かなり手応えがあり、これからも続けていきたいという感じか。

**齊藤委員** 障害者サービスを行ってはいるが、障害のある方は図書館利用が少ないので、とりあえず図書館に来てもらうためにも図書館ツアーは有効だと思う。ぜひ続けてもらいたいし、できるだけ協力したい。

**碓氷委員** 視覚障害者が図書館を利用することについては、もう少し広報すると思う。

**齊藤委員** 図書館側としてはかなり広報をしていると思う。墨田区のお知らせは点訳版や音訳版もあるが、そこにも広報していた。墨田区視覚障害者福祉協会の方にも声かけをしていたと思う。それらを行ってもなかなか掘り起こせないというのがあるし、そこが大変なところかと思う。ただ今回は、図書館の障害者サービス担当者の方が、本当に全員揃って一所懸命やってもらってできたことなので、他の図書館でやるとしても、同じレベルの職員を揃えて同じようにやらないと難しいと感じた。

他の図書館でも開催できるくらいスタッフ力を高めていって、初めてできることではないかと思う。

**日向副会長** 都留市でも、市役所から流れてくる情報もあるが、意外と障害者の人たち同士の口コミで、こんなイベントがあるから一緒に行かないか、と誘い合って参加される人も多い。今回やってみて、かなり手応えもあり課題も見えている。これを続けていけば図書館職員の底上げもできるし、一般の方でも何かお手伝いできるような雰囲気ができたらいいのでは、と感じた。

**齊藤委員** 視覚障害者の方がメインのイベントのようだが、実はメインは晴眼者の方でもあり、視覚障害について知ってもらい、視覚障害の方にいろいろ質問をしてもらうことによって、こういう説明ではいけないんだと気づいてもらうのが狙いだった。その意味では、晴眼者の方にも伝えることができた。

**日向副会長** 今回は視覚障害者の方向けに、晴眼者の方が普通の図書館サービスを説明するツアーだったが、今度は視覚障害者の方やボランティアの方が、普通の図書館利用者の方に、障害者サービスを説明するツアー等が出てくるといいと思う。10年後や20年後に、地域の利用者の方が、図書館の準図書館員のような立場で様々なサービスを説明したり、お手伝いできるようになるといい。

**北村委員** 施設の改修に伴って、蔵書の変更や増減はあったのか。

**田中緑図書館長** 蔵書の増減は特にない。

**熊倉次長** 立花図書館も特にない。

**畑野主査** 八広図書館も大きな変更はないが、使われていない資料が多かったので、少し整理をして数を減らした。

**日向副会長** そこは今後、補充していくのか。

**畑野主査** 工事に伴って、本を他の場所に運搬しなければならなかったもので、除籍を進めた。返却館方式なので返ってきたら棚に置いたり、新しく資料を買ったりもしていくが、大きな変更はない。

**日向副会長** 今回の工事で新しくなって、若い人の利用が増えたり、これまで来なかった人が立ち寄ることになるかもしれない。そうしたら次は、単なる勉強部屋になるのか、それとも図書館になっていくのか、ということだ。まずは蔵書が大事なので資料購入費を確保してもらおう。またテーマ展示を盛んにしてもらおう、読書イベントをしてもらおう等が、この次に来ることと思う。皆様からも、こんなイベントがあった方がいいのではないかと、今回新たに行ったイベントについてこんなこともできるのではないかと等のアイデアがあれば、ぜひ聞きたい。

**碓氷委員** ひきふね図書館パートナーズはひきふね図書館にしかないが、今後いろいろなサービスを拡充していく上で、やはり他の図書館にも広げていってほしい。それによって障害者サービス等も普及できる。少しずつでも計画を立ててもらおうことはできないだろうか。

**日向副会長** 北村委員としては、ひきふね図書館パートナーズを他の館にも広げていけるような方策について何かあるか。

**北村委員** 現状、ひきふね図書館だけで相当大変だ。先ほど説明のあったビジネス書の選書も、いざやってみると大変だ。やり続けられるモチベーションのボランティアを養成するというのが一番大変だと思う。

**碓氷委員** より裾野を広げていくためには、今までやったことのない人、例えば墨田区のボランティア講座を受けた人が、そちらでまずは活動して、後に図書館につながるというような道筋があるのではと思う。

**北村委員** 元々はガバナンスリーダー養成講座というのを区民活動推進課で実施していた。当時の図書館長がそれを真似て図書館に取り入れた。ただガバナンスリーダー養成講座は、知り合いの人もたくさん受けているが、講座が終わった後、実際のアクションに結びついている事例が少ない。図書館の場合は、その後に図書館を使えて、活動につなげやすい。その意味では、拡充していくのであれば、そういう養成講座から活動に結びつけることが鍵になると思う。

**日向副会長** 実際、ひきふね図書館パートナーズの立ち上げまで何年くらいかかったのか。

**北村委員** 約1年くらいだ。統合新図書館としてオープンするのに合わせて、当時の館長が、ゼロから立ち上げるボランティアを育てたいということで始めた。今は15人くらいのメンバーだ。協働でやっているの、3館に指定管理者制度が導入される中、指定管理者と地域住民との協働をどうやっていくべきなのかという論点はあると思う。

**日向副会長** 地域の人と指定管理者とがどう連携していくかについては、図書館界でも課題である。ただ住民の方は、自分の地域の図書館にこだわりがあり、使いたいと思っている方も多いので、ぜひ指定管理者の側からも歩み寄るし、住民の方としても地域のつながりの中で図書館を使っていくような組織化を行っていく。もちろん図書館としても、将来的な人材育成になるイベントを各図書館で実施していくと、その子たちが大きくなったときまで、興味を持ってくれるかもしれない。

**齊藤委員** 私は障害者サービスのボランティアをやっているが、ひきふね図書館パートナーズにも入っている。例えば点訳の入門講座をやりたい、子ども向けに母の日カードを作りたいということを、ひきふね図書館の職員にはとても言いやすいのだが、他館の障害者サービス担当者とは、あまりコミュニケーションが取れない。指定管理者になったとき、イベント等をどのようにしたらスムーズに行えるかということについて、各館の担当者とやりとりするのも大事だが、ひきふね図書館が中心となり、ひきふね図書館の担当者に言えば他館にも伝わっていくような一本化ができるといいと思う。

**日向副会長** どうしても地域館となると、マンパワーが少なかったりするので、ある

程度人数に融通の利くところで計画を出して、実際やるところはそちらで、という分担はあると思う。

**成田委員** 確かにひきふね図書館で成功した事業だとしても、そのやり方をそのまま他館に展開できるかというとなかなか難しく、アレンジが必要だと思う。まずは、ひきふね図書館でいろいろやっていることをデータベース化していく作業をこれからもやっていき、それを他館でやる時には、まず100の内の10の部分だけをやってみる、というようにしていけばいいのではないか。ひきふね図書館が中心となって部分的に引き継いでいき、職員やボランティアを育てていくというやり方を考えるのがいいかもしれない。

**日向副会長** 今年初めてやった事業の一覧なので、また来年度以降続けていく中で、広がっていくものもあるし、もっと深くなっていく事業もあるだろう。

**成田委員** 住んでいる層も違う。ひきふね図書館ではよくても緑図書館では合わないということもある。やる前にそれらを見極める人がいないと難しい。

**日向副会長** 住民の人たちが集まる場があると、そこでニーズがわかってくる。5年くらいのスパンで考えてほしい。図書館自体は百年単位で動くものなので、百年後に墨田区の図書館がうまくいっていい。あるいは今の小学生がお年寄りになった頃にうまくいっていい、くらいの気持ちで考えてもいいと思う。

**成田委員** 図書館司書希望の大学生を使うことはできないのだろうか。

**日向副会長** 近くの大学に対して、司書課程の学生をボランティアという形でお呼びすれば結構来る。サービスのお手伝いやボランティア活動への参加、スタッフ側として協働していくことはできる。都内でも明治大学等があるので先生を紹介することはできるが、大学の場合は担当している先生による。都留文科大学では、大学内の図書館サービスも手伝ってもらっているし、自分たちでビブリオバトルをやったりしている。中学校の職場体験として市内の中学生を20人ずつくらい受け入れて図書館の仕事を知ってもらっている。それを続けていくと、中学生が卒業した後に、図書館にも来てもらえるし、図書館司書にならなかったとしても、地域の図書館に関わってくれる意識が生まれるので、そのような地道な活動や連携という意味で、今回の子ども図書館員チャレンジ講座はとてもよかったのではないかなと思う。ポプラディアネットの導入も、調べる学習の際にこういうのがあるとありがたい。今年度は学校や子どもたちに対するサービスが多く、評価できると感じた。将来的な利用者、ボランティア、支援者を育てる活動としても、とても意義のあることだと思う。

**持田委員** 緑図書館の3階にハイカウンターができた。あの場所では何か食べたりできるのか。

**田中緑図書館長** 現状は館内飲食禁止なので、水分補給以外はできない。

**持田委員** 若い人たちの声を聞くと、朝から来て、お昼をまたいで午後までいるとな

ると、昼食をとる場所がない。食べられる場所があるといいのだが。

**日向副会長** 大人でも1日いる場合は、昼食時に読んでいる本を棚に戻して、自分の荷物を持って外に出るといのは、やや手間である。ただ図書館からすると飲食禁止にする理由として、汚れや臭いの問題や、食べかすがあると虫が出てくることもある。

**碓氷委員** 大学図書館なら、入館ゲートの外側にラウンジのようなものがある。

**持田委員** カフェを併設するのは難しいが、食べられる場所があるといいと思った。また小中学校向けの団体貸出セットができたのはすごくいいなと思う。数がまだ足りないが、それでも29年1月からなので、これからどんどん増えていくのかなと思う。学校予約サービスが始まったのも素晴らしい。学校図書館スタッフは、中学校にはいるのか。

**西村委員** 週2日はいる。

**持田委員** そのスタッフも学校予約サービスを使えるのか。

**石原館長** 今のところ生徒のみだ。まずは生徒の利便性ということで、対象を限定している。

**日向副会長** まずは子どもへの読書推進という文脈で開始されたことと思う。今後利用が増えてきた場合、学校としてはどのような対応になるだろうか。

**西村委員** 現在は、司書の方に来てもらうときは昼の放送で、「今日はお昼と放課後に開館します」とアナウンスしている。来ていないときは、図書担当の教員が、昼や放課後に入ってもらっている。司書の方が来てからは、貸出数や来館数も増えているので、学校としては、できればもう1日くらい来てくれるとありがたい。

**日向副会長** うちの大学でも国語教員を養成しているが、今は小学校の国語教員を目指す学生が本を読まないという問題がある。教科書の作品は読むが、個人的な趣味として自分たちで読書をしていない。それで小学校の先生になって、子どもたちにどういう指導や案内ができるのかと思う。できれば先生方にも読書をしてもらいたいし、教材研究以外の幅広い読書をしてほしい。子どもたちだけでなく学校全体で読書するという機運が高まってこないといけないので、ぜひ拡充してもらいたい。

**石原館長** 学校図書館が地域に開放されたものであるという考え方もあり、学校の先生だけに開放するという話ではなく、もっと大きな捉え方になるのかなと思う。

**西村委員** 地域に開放するのを踏み切れないのは、不審者と来館者の区別がつきにくいというのがある。

**持田委員** 必要な資料を確保できなくなってしまうことが、オープンにした学校図書館で問題になっており、もう一度クローズにするという例も聞いている。

**西村委員** 多くの学校で朝読書をしているが、私は教師に必ず「あなたたちも読みなさい」と言っている。それでどんどん本にはまっていく教員も多い。職員室の机の上に朝読書で読む本が置いてあり、教員同士が情報共有できる。図書館担当者は各

校1名、合計35名墨田区にいる。その他に、中学校には図書館部員が24名いる。そういう中で朝読書をしており、情報交換をしている。また団体貸出セットは、英語多読のセットも借りてもらっている。それを使って中学校でも小学校でも英語多読にチャレンジしようと考えている。先日ひきふね図書館で、英語多読の講師の人に研修をしてもらった。うちの学校はやる気になって、朝読書を週に1日は英語にしようと思っている。そういう新たな取組を各学校に紹介していければいい。図書館担当教員が一番苦勞するのは本の購入だ。たくさんありすぎてどれを選んでいいかわからないし、予算は使い切らなければならない。値段のかさむシリーズものを揃えてしまい、先が長いからと生徒は借りないケースもある。それなので、こういう本を買ったらいいというリストではなく、本そのものを学校に持ってきて、それを図書委員が見る形ができれば、先生も苦勞しなくていいと思う。

**持田委員** 現物の本を持ってきてもらう「見計らい選定」というのもある。

**日向副会長** 書店での選書ツアーには、子ども向けや先生向けの選書ツアーがある。それらも利用し、まずは学校図書館の本を充実していき、公共図書館の方でもできるだけ提供する機会を作れるといい。

**北村委員** 新宿区立中央図書館はすごく団体貸出に力を入れているので、話を聞いてみるといいと思う。団体貸出用の専用ルームを作って、各教科の棚を作っていて、区内の全小中学校や児童館、幼稚園、保育園にまで貸出セットを届けている。それらの連携をしているので、学校で買わなくても図書館で借りられる。新宿区も中央館だけが直営で、あとの分館は指定管理という状況だが、団体貸出については新宿区立中央図書館でやっていたので勉強になった。

**日向副会長** 今後はセット数を増やしたり、学校図書館や先生方の事情に合わせた形に変えていくということもある。また行政の学校関係の部署との連携をしていく必要もある。来年度以降、うまくつなげていただければと思う。

## 議事第2

来年度に向けた課題について（ハイティーンの利用促進等）

**日向副会長** それでは第2番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

**石原館長** 配付資料2について説明

**日向副会長** 全国的には読書が減る年代である16歳から18歳までの高校生、あるいは働いている方もいるだろうが、それらの人たちに向けてのサービスを考えたい。ひきふね図書館ではそれなりに利用が増えているので、他館でも増やしていきたいということだと思う。個人的には、子ども図書館員チャレンジ講座を高校生にも伸ばしていければいいと思うし、高校生が子どもたちに対し図書館サービスをしていくようなイベント等もありなのではと思う。皆様にもいろいろなアイデアを出してほしい。

**北村委員** ハイティーンの人たちが図書館を使う大きなきっかけは勉強だ。ひきふね図書館は学校のテスト前は席がいっぱいで座れないようなので、テスト前の期間、中高生優遇スペースを設置してはどうか。一定の時間帯に中高生優先席を作ることによって利用促進できるという話を聞いた。このような事例は広がりつつあるので、試しに導入してみてもいいのではないか。

**日向副会長** 曜日と時間を限定して、試験期間の1週間は優遇するという事例があった。また武蔵野プレイスのように、土日は大人席だが平日は学生席という住み分けもある。学校の試験期間に合わせて実施してみて、一般の人からクレームがきたりするかもしれないが、試しに少しずつやってみるのがいい。

**北村委員** まずは受験シーズンからやってみるといいかもしれない。

**碓氷委員** やはり長時間パソコンを使える環境が必要だ。ひきふね図書館に電源があって、他館にないというのは問題だと思う。工事は終わってしまったので仕方がないが、そういう環境は考えた方がいい。

**日向副会長** 今の大学生は、調べ物は基本的にスマホで行っているのだから、パソコンを使ったことがない大学生が最近は増えている。タブレット等含めた機器を持ち込んで使う際は、電源の話になるが、改修工事は済んでしまったので今後の検討課題だ。スマホの充電を許すかどうか、その先はゲームの充電を許すかどうか、という話になる。学習の方法として、インターネット等を使った学習が増えてきているので、それらに対応するサービスを増やしてほしいというのはあるだろう。

**持田委員** 中高生が本当に必要としているのは拠点となる場所だと思う。改修後の緑図書館に行ったが、1階のティーンズコーナーはすごくいいと思った。ただ、カウンターの目の前の席は座りにくいとも思う。逆に奥の囲まれたコーナーは、中学生くらいの子たちが座っていた。囲まれたスペースが自分たち用の雰囲気になっており、そこがコミュニティを形成する場所として機能しないと、図書館が自分たちの場所と思えないのかな、と感じる。

**碓氷委員** 持田さんの言うのはグループ学習エリアのようなイメージか。

**持田委員** そうではなく、勉強もできるし、同じような世代の子たちが一緒にいられる場所というか、「自分はここに座って何かをできる場所だ」と彼らが思える雰囲気づくりが大事だと思う。ひきふね図書館にはティーンズルームがある。やや小さいが、中でお喋りもできていて、コミュニティとして多少は機能しているのかなと思う。そういう場所がもっと必要だ。

**日向副会長** 自分もハイティーンだった頃は、自意識過剰で見られていると恥ずかしかったりしたので、何か目隠しがあるといい。完全に部屋にしてしまうよりは、パーテーションを置くくらいで、あとは座席の工夫でできると思う。それらの雰囲気づくりが大事で、ひきふね図書館はそれがうまくいったので、ハイティーンの人々が来ているのだと思う。これからは3館も来やすいような雰囲気づくりをしていく。

そのために実際の中高生の意見を聞くのも必要だ。大学のラーニングコモンズ（大学図書館に設けられた学習支援を意図した場所や施設）で最近多いのは、部屋にはなっていないが目隠しがあるものだ。ファミレス席とって視線が限られている。誰かがいるというのはわかるが、誰が座っているかはわからない。今回出してもらったのは貸出数の統計だが、例えば夕方の4時から6時で何人くらい人がいたかを数えるのもいい。つまり、今の若い人は本を借りるよりもその場で使う人が多いので、貸出数はどうしても下がってしまう。ただ実際に人はたくさんいるので、ティーンズコーナーにいる人数を、手作業で1時間くらいカウントしてみる。その数が増えているかどうかで評価してみるのもいい。また、個人的な意見だが、本の種類を増やしてほしいとも思う。どうしても図書館だと物語中心の本が多く、科学や技術、ハイティーン向けのノンフィクション等が少なくなってしまうので、それらのテーマ展示も考えてほしい。16歳から18歳は、ほぼ大人向けの本が読めるので、そういう本も用意してもらえるとありがたい。原発問題に興味を持っている高校生もいる。物語の本を減らすという意味ではなく、あくまで割合の話だ。そうしていくとこれまで興味のなかった人が来るのではないかと思う。

**西村委員** 昔は児童館と呼ばれた施設が、今はティーンズの居場所になっている。そこは中高生をターゲットにして、小学生が使うのは6時くらいまでで、部活がある中高生は6時くらいから9時までいられる。試験前に勉強部屋を作るから来て、という企画をやっている。児童館は学校数よりも多いので、そこと図書館とが何らかの連携ができると、ティーンズ世代の人の目が少しずつ図書館に向くのではないか。例えば学校にあるような端末が児童館にもあって、そこから本を頼めるとなると、本を読む機会が増えるのかなと思う。

**日向副会長** 課を超えての連携が本当に重要な課題になっているので、墨田区全体として臨まないといけな。本を運ぶのは大変だが、それをやっていかないと、今の子どもたちには届かないかもしれない。今日出た様々な意見を受け止めてもらい、今後に活かしてもらえればと思う。

**齊藤委員** 新たな取組には、他にも「世界のバリアフリー絵本展」というものがあった。担当された職員は大変だったと思う。区立図書館で行うことはあまりないので、今回紹介してもらってもよかったと思う。

**日向副会長** 先ほども言ったことだが、障害者の人だけでなく、普通の人に障害者のサービスを知ってもらうという活動が、非常に重要なことだと思う。

**石原館長** いろいろな意見は真摯に受け止めたい。今年度は3館の指定管理者制度導入準備や改修工事の事務量が多くあった中でも、様々な事業を充実させることができた。その結果、利用者の皆様に好評の声をもらうこともできた。職員、委員の皆様、区民の皆様に感謝したい。最後に、今年度最後の協議会となるので、委員の皆様一言感想をもらえればと思う。

**西村委員** ひきふね図書館が安定してきたことで、図書館に対する区民の思いも、いい方向に向いていると感じている。

**成田委員** 1年間いろいろな発信をされたと思う。せっかくの実績をどこかで拡散した方が、今後の意欲につながるのではないか。拡散することで情報を得るということもある。

**碓氷委員** まだ今年度3回だけなので全体像は見えない。私が現役のときは熱心に本を集めたが、区立図書館でどこまでやるものなのかわからない。今後の議論でそれらを聞きたい。

**持田委員** 行政はそう簡単には動かないが、少しずつ動いているという手応えがある。

**齊藤委員** 今年度は提案したことをたくさん実現させてもらったので嬉しかった。

**北村委員** 様々なバックグラウンドの人が関わるのがいいと思う。もっと一般的な住民の人にも知ってほしい。その点、横浜市の図書館では、様々な実績を公開しているので参考になると思う。

**日向副会長** 予算や人員が不足しているのはどこの図書館でも同じだが、地域の人で自分たちで提案し、活動しているような図書館は、どこも輝いている。ぜひこの協議会で、今後もそういう形で活動していけたらと思う。

以上で、第3回図書館運営協議会を閉会する。